家庭数配付　　かがやけ太陽の子　「　やさしく　かしこく　たくましく　」

学校だより　　新潟市立江南小学校　　令和５年２月20日

江南の子

令和４年度
第11号

マスクの着脱と他者への寛容さ

校長　　藤井　正人

コロナ禍の３年余，次のような日が来ることを待ちわびていました。

青き踏め　マスクを鳩として放て　　夏井いつき

そして，令和５年２月10日，文部科学省は「卒業式では，児童生徒と教職員については，マスクを外すことを基本とする」という通知を出しました。いよいよその時が来た！

と，喜んだのも束の間。果たして私たちは“マスクを放つ”ことができるでしょうか。子どもたちに“マスクを放て”と勇んで言うことができるでしょうか。当然，本人や身近な人の重症化リスクが高い場合に言うのは論外です。悩ましいのは，今となって素顔を見られることに心理的負担を感じる場合です。「みんな一緒に外せば，恥ずかしくないよ」なんて安易な呼び掛けはナンセンス。とにかくいずれの場合も，他者から外すことの判断を強要されることは絶対にあってはなりません。

“新しい生活様式”を送ってきた３年間，家から外に出たら，マスク着用が原則でした。入学式や卒業式も，記念写真撮影の時以外は，全員がマスクを着けていました。それでは来月の卒業式はどうするか。文科省の通知を詳細に読むと，概ね次のようになります。

- 呼びかけや合唱時は，飛沫感染リスクがあるためマスクを着用する。
- 上記以外の時は「マスクを外してもよい」ことを告げるが，個人の判断で着けていてもよい。

個人の判断に委ねると，卒業式では，着けている子と着けていない子が混在する様相が想定されます。そして，卒業式に限らず，その後しばらくは，そのような状況が続くことでしょう。そんなときに大切になるのが，**自分と異なっている他者への「寛容さ」**です。価値観が多様化している現代社会だからこそ，他者の考え方や事情を理解し，受け入れる寛容さがますます求められます。

今月の第２週に行われた児童会活動「長縄大会」。目標を見事達成した学級も惜しくも叶わなかった学級も，それぞれ価値ある体験や学びを得ました。その一つとして，３年生の振り返りで次のような記述がありました。

> 私が大なわ大会で思ったことは，いままであまり感じなかったみんなのやさしさです。練習の時も本番の時もひっかかってしまった人に「おしかったね」「ドンマイ」などのやさしい言葉をかけていた人がいてきれいな心を持っているのだと思いました。・・・

長縄大会では，ほぼ全ての学年で「ドンマイ！」の声が響いていました。**長縄で引っかかった友達への優しい言葉掛けは，他者の失敗への寛容さの表れ**と言えるでしょう。

そのような失敗への寛容さをもっている江南の子どもたちは，マスクの着脱程度の違いで責め心をもつようなことはないと確信しています。自分の判断で安心してマスクを着脱する期間を経ることで，「マスクを鳩として放」つ心境になる人が増えていくのでしょう。